

実行委員の対談。最近のこととか本のこととか・・・。

一先日、3人で久しぶりに神社に行き、神社の楠宣さんである、大石さんとお話をさせていただきました。

M コロナ禍で神社に来る人も減っているとのこと。このコロナ禍だからこそ、以前の日々がどんなに素晴らしいことだったのか、どのようにすれば以前のような日々が1日も早く戻るのか、みんなで考えていきたいとのことでした。そして、来年神社の改修がいよいよ始まる。いつか、ゆくゆくは神社で、都会と神社の森のコントラストを感じながら訪れる人が心落ち着ける場所に、そして日本の文化を伝える、体験のできる場所にしたい、そんな思いをお話しくださいました。

K 1週間前に神社の大祭が開催され、お疲れとはいえ、相変わらずパワフルでした(笑)。

S 大石さんはずっとぶれないですよね。神社をこうしたいっていう夢、1回目の頃からずっと言ってましたもの。いつも未来のことを考え続けるエネルギーがあってすごい。

M そして、毎度神社を訪れる必ず変化がありますね!

K この前は植物園みたいになっていて驚きました。

S そう、行きたびに様子ががらりと違う神社なんて、そういうないです。

M 程よい広さの境内、人ととの距離感も程よい気がします。

一本当は今年秋に開催するはずだった、第5回一箱古本市。オリンピックとの同年開催の年として、海外からも古本市に来て欲しい!と話していましたね。

実行委員のひとりごと×3

学生時代は学校で朝読書の時間があり、小学生の頃はクラスの壁の模造紙に一人一人読んだ本をカードサイズの紙に書いて貼っていました。

上から重ねて貼るので、たくさん読む子は厚くなりすぎて貼れないものでした。自分もそのタイプで、その当時の紙が残っていたらおもしろいのにと時々思います。あの頃の自分は何を読んで何を思っていたのか。今は自分で読んだ本の記録をつけているけれど、あの頃の自分に記録をつけておいて!と伝えたいほどです。

記録は未来の自分への贈り物。コロナが始まっていますから、ますます本ばかり読んでいます。(S)

10年ほど前、数ヵ月の間ホテル暮らしをしていた。一週間分の洗濯物を持って近くのコインランドリーに行くのが毎週土曜の過ごし方だった。

ぐるぐるとまわる洗濯物に時おり目をやりながら本を読む。不思議と読書に集中できたのは、慣れない環境で落ち着いて本を読むこともままならない生活の中、洗濯が終わるまでの間に本を読むことが日常を取り戻そうとする行為だったからなのかもしれない。

春先から気持ちの落ち着かない日々が続いている。次の土曜日、久しぶりにコインランドリーに行ってみようと思っている。(K)

昨秋出産して早一年、今や小さな怪獣のような我が子の相手を週末数時間お休みする、ぷち家出がマイブーム。夫にベビーを託し、一人で電車に乗って、先日、紀伊國屋書店新宿本店で開催されている「本屋で都市を編む」35名のアーバンシンカーによる70冊の選書フェアを見にいきました。「これからの都市や社会を考える」きっかけになる本というテーマ、スマートシティ、サードプレイス、クリエイティブ・コミュニティ…こういうワーズに囲まれてみると未来の都市は一体どれほどスタイルでスマートな姿をしているんだろうと、眺めて想像しては…買って帰っても小さな怪獣に襲われてゆっくり読めやしない、と頭の中で言い訳をして手ぶらで本棚の前を後にしたのでした。(M)

イベントレポート

ブックフェスタ・ジャパン 2020
2020年9月20日(日)~10月18日(日)

毎年春にin関西で開催されているブックイベント。関西エリアのまちライブラリーや公共図書館、書店など本にまつわるスポットがつながってイベントを開催していましたが、今年はコロナ禍でオンライン開催となり、日本各地の域に根ざした、本を通じた人とのつながりを生み育てる活動として、様々なイベントが開催されています。

イベントの一つ、9月20日に開催された「オープニングシンポジウム 大阪のまちと文化を考える Vol.2」を覗いてみました。当イベントのオープニングとして、「まちライブラリー」の発祥の経緯や今後の展開についてお話をありました。

S そういえば海外って古本市とかあるのかな。

K パリのセーヌ川沿いには「ブキニスト」という古本屋さんがあるそうです。

M バルセロナでも毎週日曜日にサン・アントニというところで古本市が開催されてるようです。

K 古本市じゃないけど中国語で古本を「二手書」と呼ぶらしく、良い字面だなあと思いました。そういうことばがあるのでから中国にも古本市はありますね。海外の古本市もいくつか行ってみたいです。

M 日本の“一箱”古本市は海外のお客さまの目に新鮮に映るかな?ミニチュア好きな日本っぽさが表れているかも?

K オリンピックに限らず、海外からの旅行者がふらっと遊びに来てくれる感じであります。神社が改修されたら、より神社を見に訪れる人も増えそう気がします。

S そもそも、改修するという話の縁からこの一箱古本市も始まってるで楽しみです。

一神社の改修と共に、古本市もどうなっていくのか!

M 境内が広くなるようなので・・・ソーシャルディスタンスを確保しつつ、より多くの店主さんに出店してもらいたいな~。

S のんびりな雰囲気は残していきたいなあ。

K 今までの雰囲気も継承しつつ、出店してくれる人も、見てくれる人も増やしたいですね。
そして初心者にやさしい一箱古本市であります。

M・S 同意!

「まちライブラリー」は日本全国のまちなかにある、オフィスビルやカフェの一角、個人宅まで、みんなで本を持ち寄り作られる本棚のあるスペースです。持ち寄った本には寄贈者のメッセージや、読んだ人の感想が書けるように施し、本を借りにきた人、寄贈する人、本棚の周りに集まってきた人にコミュニケーションが生まれるような場所になっています。

「まちライブラリー」は「可能な限りお互いの顔が見える規模」で「従来の図書館の一方的な関係ではなく、利用者が本を持ち寄り交流しながらライブラリーを作り関係性を作る」、そんな場所を作るべく、全国のあちこちに誕生しています。